

今朝も皆さまとともに主を礼拝できます幸いに感謝いたします。今朝は特別に先に天へと帰られた方々を覚えての召天者記念礼拝をおさげしています。会堂やオンラインでこの礼拝に集われた方々、特に愛するご家族を天へと送られた皆さまに主の慰めと平安が豊かにありますよう、心からお祈りしております。

多くの証人たちが

今朝の礼拝ではヘブル人への手紙12章のみことばが読まれました。1節をもう一度お読みします。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている。証人とは神さまへの信仰を持って生きた信仰者たち、神さまの恵みを証してこの地を生きた人々のことです。多くの証人が私たちを取り巻いている。多くの人々がその生涯を通して、神さまの恵みと真実を証してくださっている。その証に励まされながら私たちもこの地を歩んでいこう。それがみことばが今朝私たちに教えていることです。

今日のみことばは私たちの信仰の歩みを「競走」と語ります。この言葉は「戦い」や「苦闘」とも訳される言葉です。重荷やまとりつく罪の存在、信仰の戦いを聖書は教えています。しかしそれは決して1人での戦いではないというのが、今朝のみことばが私たちに教えていることです。雲のように多くの証人が取り囲んでいる中での競走。オリンピックや陸上の大会など、スタジアムで多くの観客に見守られながら走るランナーの姿を思い描くと良いかもしれません。多くの人の信仰の歩み、その証に励まされながら、私たちは信仰の道、信仰の戦いや競走を走り抜いていくのだ、ということです。信仰を持って生きる道は決して平坦なものでも、何の苦労も心配も誘惑もない順風満帆なものでもありません。そこには戦いがあります。しかしその競走を、忍耐を持って走り切った人がいる。時に倒れそうになりながらも、神さまに支えられ守られてこの地を歩み抜かれた方々がいる。信仰者の歩みを支え守ってくださる神さまの恵みを覚えまたその恵みに信頼しながら、私たちもこの地の競走を走り抜く者とされていきたいのです。

「こういうわけで」と今日の12章は始まります。どういうわけかと言いますと、その前の11章には信仰を持ってこの地を歩んだ旧約聖書時代の信仰者の歩みが語られています。

少し11章の内容を見ておきたいと思います。11章の1節と2節。

さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。

信仰を持ってこの地を生きた人々の証をヘブル人への手紙は語ります。望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させる信仰。その信仰を持って生きるとはどういうことか。例えば旧約聖書の創世記に出てきますアブラハムについては、このように語られています。11章8節と9節。

信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。

信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。

アブラハムは神さまのみことばを受けて、それまで住んでいた土地を出て約束の地へと行きました。どこにいくのかを知らず、何の保証もないまま、みことばの約束を信じる信仰によってこの地を歩んだアブラハムの姿を、聖書は教えています。それは天の故郷を目指して歩む歩みでありました。11章13-16節。

これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。

もし彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会はあったでしょう。しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。

天の故郷を目指して生きる歩み。地上では旅人であり寄留者である。この地に生きる者でありながら、天を目指して生きる歩みを信仰者たちはしていった。そう聖書は語ります。神さまが備えてくださった天の故郷、神の都を目指しての歩み。その姿に倣い、その姿に励まされて、地上の歩みを私たちも信仰を持って歩もうと、みことばは励ましているのです。

私たちも今朝この礼拝で信仰を持ってこの地を生きられた方々のお名前を読み上げ追悼いたしました。八千代聖書教会の40数年の歴史の中でも30名の方々の召天者のお名前が挙げられています。私はこの八千代聖書教会に赴任して今年が10年目ですが、だんだんと私が赴任してから召された方々のお名前も増えてきました。これらの方々の人生は、信仰を持って生きることの恵み、神さまに愛され神さまとともに歩む生涯に注がれる豊かな恵みを私たちに証しています。

私がこの八千代聖書教会で、召天に立ち会わせていただいた方々の最期もまさしく、信仰をもって生きることの恵み、今も生きておられる神さまのみわざを証しするものであったと思います。地上での最期、この地での別れというのは本当に寂しく辛いものですが、どの方の召天にも神さまの慰めと平安が満ち溢れるような、そんな恵みを経験させていただく時であったことを思うのです。ある方はイエスさまにある平安の中、本当に穏やかに天へと帰って行かれました。またある方は神さまの不思議な導きの中、地上の生涯の最期に信仰を告白し、御国への希望と喜びの中この地の歩みを終えて行かれた。別離の悲しみを味わうともそこにある神さまの恵み、生きて働かれる神さまのみわざを見させていただく、そんな経験ばかりでありました。今日お名前をあげた方々の中には明確には信仰を告白せず天に帰られた方々もいらっしゃいます。しかしそのような方々も含めて主の恵みのうちにこの地の生涯を歩まれ、神さまの愛と平安のうちに天へと帰られたお一人おひとりを私たちは覚えるものです。先に天に帰られた方々のことを思う時、そこには悲しみや寂しさもあります。しかしそれ以上に、神さまを信じてこの地を歩み抜かれた信仰の先輩たちのお姿、そこに示された神さまの愛を覚えて、感謝と励ましを受けて私たちはこの地の歩みを進めてまいりたい。そのように願うのです。

今日先ほど名前を挙げたお一人おひとりに神さまは恵み深く関わり、その人生を守り導いてくださいました。八千代聖書教会の歴史の中で覚えられてきた召天者。それだけでなく、日本で世界で信仰をもって生きたたくさんの方々がいます。数えきれないほど多くの人々の生涯を、神さまは守り支え、信仰を持って生きる真に確かで幸いな生涯へと導いてくださいました。この神さまは今日も生きて私たちとともにおられます。私たちの人生を豊かな祝福のうちに守り導いてくださる。真実で愛に満ちた、恵み深い神さまへの信仰を持って生きることの幸い、神さまとともに生きる恵みを覚えて私たちはこの地の歩みを進んでまいりましょう。

イエスから目を離さず

そしてこの信仰者の模範、信仰の証の完成者はイエス・キリストであると今日のみことばは教えます。2節。

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

ヘブル人への手紙はイエスさまを「信仰の創始者であり完成者である」お方と呼びます。創始者と訳されている言葉は「指導者」とも訳すことができます。イエスさまは信仰とは何かを私たちに教えてくださるお方であり、私たちを教え励ましてくださるお方です。しかもこのお方は単に信仰を指導するだけでなく、実際にこの地上の歩みを信仰を持って歩み抜かれたお方です。信仰の創始者であり、完成者であるとはそういう意味です。

誰よりもイエスさまのこの地での歩みが、私たちの信仰の模範であり励ましであること。私たちの罪のため十字架を忍びこの地を生き抜かれたイエスさまのお姿を私たちはいつも心に留める者でありたいのです。イエスさまはご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍ばれた。そうみことばは教えます。十字架への道を進まれたイエスさまのお姿、十字架で命を捨て愛を示してくださったあのお姿にこそ、私たちの信仰の模範が示されているのです。このイエスさまが今も生きて私たちとともにいてくださいます。イエスさまの愛と真実の中生かされた信仰の先輩たちの姿を覚えつつ、イエスさまを見つめこのお方から目を離さずに、私たちは歩み続けてまいりたいと思います。

イエスさまはこうおっしゃいました。ヨハネの福音書11章25-26節。

イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」

イエスさまは、よみがえり、いのちであられます。このお方に信頼しこのお方を見上げて生きる者は死んでも生きると約束されています。たとえこの地上のいのちが終わるとも、イエスさまとともに永遠に生きることができる。やがて復活し、先に天へと帰られた方々とも再び会うことができる。よみがえりであり、いのちであられるイエスさま。このお方の愛と恵みを受け、このお方を信じて歩む歩みを、私たちは続けてまいりましょう。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

私たちにもやがて、この地を去る時が来ます。私たちの信仰の先輩たちがそうであったように、神さまは私たちのことを最期まで守り支えてくださいます。願わくは、私たちこの礼拝に連なる者の生涯もまた、神さまの真実を現しイエスさまの愛を現す信仰の証として用いられていくように。私たちも信仰の証人として、他の人々を励ます存在となっていくことができるように。残された地上の時を、イエスさまの愛と真実、このお方にある復活と永遠のいのちの希望を抱いて歩む私たちとさせていただきたいと思います。

お祈りをいたします。「私たちの主、イエス・キリストの父なる神さま。今朝このように、天に召された方々を覚えての礼拝をおさげできます幸いに感謝いたします。信仰を持ってこの地を歩まれた方々の生涯を思い起こし、そこに豊かに示されたあなたの愛と恵みを覚え、心から御名を崇めます。私たちもまたやがてはこの地を去る者です。あなたへの信仰と、イエスさまにある永遠のいのちの望みのうちに私たちを続けて守り支えてくださいますように。この礼拝とともにささげるお一人おひとり、愛する家族や友を天へと送られた皆さまに、あなたからの慰めと平安が豊かにありますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。」